国産鶏種の改良を進めるに当たって、卵用鶏については、外国鶏種の産卵能力と比較しても遜色はないものの、卵質等の面で外国鶏種との特色の違いをいかに示していくかが課題となっている。また、国産鶏種の肉用鶏について、飼育期間や給与飼料を工夫すること等により特別な飼育をしている地鶏（注３）等は、在来種（注４）等を利用していることから、いかに種鶏の繁殖性や増体性を向上させ、安定的な供給能力を確保するかが課題となっている。

また、我が国の養鶏産業においては、飼料原料の価格が高水準で推移する中、飼料の利用性等の改良を進めるとともに、飼養・衛生管理方法の改善を図ることにより、生産コストの低減に努める必要がある。

注１：外国鶏種

外国鶏種とは、海外で育種改良された種鶏と、これらから生産された実用鶏（鶏卵・鶏肉の生産のために、雑種強勢効果を発揮する種鶏を交配して生産した鶏。）。

注２：国産鶏種

国産鶏種とは、独立行政法人家畜改良センター（以下「家畜改良センター」という。）、都道府県及び民間の関係機関の連携の下に日本国内で育種改良された種鶏と、これらから生産された実用鶏。

注３：地鶏

在来種に由来する血液百分率が50％以上のものであって、かつ、その飼育期間が80日以上であり、28日齢以降平飼いで１㎡当たり10羽以下の環境で飼育したもの。

注４：在来種

明治時代までに国内で成立し、又は導入され定着した「地鶏肉の日本農林規格」の別表に掲げる鶏の品種。

２　改良目標

⑴　能力に関する改良目標

以下に示す、卵用鶏及び肉用鶏の飼料要求率（注）を始めとする能力に関する現状及び目標の数値は、養鶏農家において飼養されている外国鶏種の能力水準に基づくものであり、これを直ちに品質や特色を重視する国産鶏種に適用するには困難な面もあるが、国産鶏種の改良を図っていく上での指針となるものである。

一方、肉用鶏のうち、全国各地で在来種等を利用して飼育期間及び飼料に工夫を加えて生産されている地鶏等については、ブロイラーとは別に消費者の多様なニーズに対応した目標を設定することとする。

注：飼料要求率

卵用鶏の場合、鶏卵１kgを生産するために、肉用鶏の場合、体重１kgを増加させるために必要な飼料量であり、次の式により算出される。

$$飼料要求率＝\frac{飼料摂取量}{生産量等}$$

①　卵用鶏

ア　飼料要求率

日産卵量（注１）の低下につながらないよう留意しながら、現在の飼料要求率を維持するものとする。

イ　生産能力（産卵率、卵重量、日産卵量、50％産卵日齢（注２））

飼料要求率を維持しながら、産卵率を改善するとともに、卵重量については現状の水準を維持するものとする。また、一定の産卵性を持続させつつ早期に目標卵重量に達し、目標卵重量を維持するものとする。

注１：日産卵量

卵重量に産卵率（一定の期間における鶏群の産卵個数を、その期間の鶏群の延べ羽数で除した数値）を乗じた数値である。

注２：50％産卵日齢

鶏群の半数の鶏が産卵を開始する日齢。

表１：卵用鶏の能力に関する目標数値（全国平均）

	飼料要求率	（参考）飼料摂取量	鶏卵の生産能力			
			産卵率	卵重量	日産卵量	50％産卵日齢
現在	2.0	124 g／個	87.9 %	61～63 g	54～55 g	143 日
目標（平成37年度）	2.0	124	88.0	61～63	54～55	143

注１：飼料要求率、産卵率、卵重量及び日産卵量は、それぞれの鶏群の50％産卵日齢に達した日から１年間における数値である。

注２：飼料摂取量は、１個当たりの鶏卵を生産するために必要な飼料量（g）の数値であり、参考値である。

ウ　その他の能力に関する改良事項

⑺　卵質

生産・流通段階における破卵の発生の低減を図るための卵殻強度並びに消費者ニーズに応えた卵殻色、ハウユニット（注１）及び肉斑・血斑（注２）の発生率等の改善のための改良を推進するものとする。

⑴　育成率・生存率（注３）

長期にわたる高い生産性を維持するため、疾病に対する遺伝的な抵抗性の付与、飼養・衛生管理の改善等により、育成率及び生存率の向上に努めるものとする。特に、生存率の向上は、高い生産性を持続させることが期待でき、鶏の更新コストの抑制にもつながることから重要である。

注１：ハウユニット

鶏卵の鮮度を判定する指標として示されるもので、次の式により算出される。

$100\times\log(H-1.7\times W^{0.37}+7.6)$

Hは割った卵の卵白の高さ（㎜）、Wは卵重（g）

注２：肉斑・血斑

肉斑は鶏卵内に肉片様のものが付着したもの。血斑は鶏卵内に血液が付着したもの。

注３：育成率・生存率

育成率は、え付け羽数に対する一定の日齢時（卵用鶏の場合は生後５箇月齢時。肉用鶏の場合は出荷日齢時。）の羽数の割合である。生存率は、卵用鶏の生後５箇月齢時の羽数に対する一定期間（１年）後の羽数の割合である。

②　肉用鶏

ア　ブロイラー

⑺　飼料要求率

生産コストの削減を図るため、飼料要求率の改善に努めるものとし、その際には、増体の低下につながらないよう留意するものとする。

⑴　生産能力（出荷日齢・体重）

飼料要求率の改善と増体に努めるものとする。

⑼　育成率

飼養・衛生管理の改善と併せて、疾病等に対する遺伝的な抵抗性の付与により、育成率の向上に努めるものとする。

⑽　その他の能力に関する改良事項

実用鶏の雛の効率的な供給を図るため、母系の種鶏の産卵能力向上に努めるものとする。